

2022年9月21日
株式会社日本政策金融公庫

令和4年上半期農業景況DIは、マイナス幅拡大

～ 担い手農業者の設備投資意向は低下するも、投資予定ありは5割を維持 ～

<農業景況調査（令和4年7月調査）>

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和4年7月調査）」を実施しました。

今回調査では、定例の景況調査のほか、原材料費高騰の影響及び今後の対策について調査しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

<農業景況>

- 令和4年上半期（1～6月）の農業景況DI（▲42.9）は、前年実績から13.3ポイント低下し、マイナス幅が拡大しました。
- 令和4年通年の景況DIの見通し（▲55.1）は、令和4年上半期（1～6月）実績から12.2ポイント低下し、さらにマイナス幅が拡大する見込みとなりました。
- 令和4年上半期（1～6月）の生産コストDI（▲88.0）は、前年実績から19.9ポイント低下し、全業種で大幅なマイナス値となり、過去最低水準となりました。
- 「設備投資予定あり」の比率（51.9%）は、前年から6.7ポイント低下するも、5割を維持しています。業種別に見ると、畜産業種を中心に比率は低下し、畑作、露地野菜、果樹、施設花きは前年並みとなりました。

<原材料費高騰の影響及び今後の対策について>

- 原材料費高騰について前年対比で上昇幅を聞いたところ、「肥料費」は耕種経営において「前年比30%以上増加」と回答した割合が40.9%となりました。うち「前年比50%以上増加」と回答した割合は、畑作、稲作（北海道）、露地野菜の順で高くなりました。
- 「飼料費」は畜産経営において「前年比30%以上増加」と回答した割合が62.4%となりました。うち「前年比50%以上増加」と回答した割合は養豚、採卵鶏、酪農（都府県）の順で高くなりました。
- 原材料費高騰に対する今後の対策としては、「補助金・価格補填等の利用」、「まとめ買いなど仕入ロットの変更」、「仕入先等との価格交渉」の順で高い割合となりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査（令和4年7月）

～農業の景況、原材料費高騰の影響及び今後の対策について～

～目次～

I .農業の景況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P3～7
II -1.原材料費高騰の影響について・・・・・・・・	P8～12
II -2.原材料費高騰に対する今後の対策について.....	P13

○調査概要

- 調査時期: 令和4年7月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち22,987先
- 有効回答数: 6,772先(回収率29.5%)

(内訳)

稲作(北海道): 543、稲作(都府県): 1,673、畑作: 485、露地野菜: 631
施設野菜: 640、茶: 103、果樹: 353、施設花き: 187、きのこ: 82、
酪農(北海道): 260、酪農(都府県): 342、肉用牛: 586、養豚: 264、
採卵鶏: 120、ブロイラー: 112、その他: 391

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 農業の景況(景況DI、収支DI)

- ・令和4年上半期(1～6月)の農業景況DI(▲29.6→▲42.9)は前年実績から13.3ポイント低下した。
- ・令和4年通年見通し(▲42.9→▲55.1)は上半期実績から12.2ポイント低下し、マイナス幅が拡大する見込み。
- ・収支DI(▲35.1→▲48.8)は前年実績から13.7ポイント低下し、すべての業種でマイナス値となっている。

1. 景況DI

	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	R1年 実績	R2年 実績	R3年 実績	R4年 上半期実績	R4年 通年見通し
農業全体	13.2	▲ 1.4	▲ 33.7	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	6.0	▲ 24.9	▲ 29.6	▲ 42.9	▲ 55.1
稲作(北海道)	43.9	▲ 4.2	▲ 67.2	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	26.5	▲ 3.6	▲ 55.2	▲ 57.3	▲ 80.1
稲作(都府県)	36.2	▲ 10.2	▲ 71.0	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	11.4	▲ 33.4	▲ 55.9	▲ 47.5	▲ 59.5
畑作	1.6	▲ 27.6	▲ 5.3	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	31.6	▲ 32.3	0.2	▲ 30.7	▲ 63.7
露地野菜	6.7	15.1	▲ 15.7	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	▲ 9.3	▲ 32.8	▲ 21.4	▲ 20.5	▲ 35.9
施設野菜	19.9	15.6	▲ 8.4	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	▲ 22.4	▲ 28.1	▲ 32.3	▲ 24.3	▲ 24.6
茶	▲ 12.8	▲ 44.8	▲ 55.0	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 53.1	▲ 78.0	▲ 0.9	▲ 27.5	▲ 32.3
果樹	16.0	6.3	▲ 12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲ 16.8	11.9	▲ 9.4	▲ 17.0
施設花き	▲ 8.0	▲ 2.8	▲ 34.4	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 20.2	▲ 40.2	5.8	▲ 4.3	▲ 18.9
きのこ	▲ 19.6	4.7	▲ 20.7	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	▲ 23.2	3.0	▲ 40.8	▲ 54.9	▲ 54.9
酪農(北海道)	▲ 2.2	▲ 9.4	▲ 4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲ 19.3	▲ 32.8	▲ 75.7	▲ 88.4
酪農(都府県)	0.0	▲ 23.8	▲ 30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲ 16.4	▲ 39.5	▲ 86.2	▲ 88.0
肉用牛	8.3	20.5	▲ 1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲ 0.2	▲ 43.9	▲ 3.1	▲ 56.2	▲ 71.3
養豚	▲ 38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 4.1	44.3	▲ 36.4	▲ 76.5	▲ 79.4
採卵鶏	▲ 40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 38.9	▲ 43.8	22.6	▲ 76.7	▲ 78.3
プロイラー	▲ 1.3	▲ 22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲ 2.1	▲ 43.8	▲ 62.5

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比から「悪くなった・悪くなる」とする構成比を差し引いたもの

2. 収支DI

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年 上半期実績
農業全体	12.5	▲ 7.0	▲ 39.7	14.2	16.7	14.7	▲ 20.1	▲ 1.5	▲ 27.6	▲ 35.1	▲ 48.8
稲作(北海道)	44.7	▲ 14.4	▲ 72.4	21.3	▲ 13.7	43.0	▲ 63.3	17.9	▲ 1.8	▲ 57.6	▲ 66.1
稲作(都府県)	37.8	▲ 22.0	▲ 76.7	▲ 6.5	23.8	2.2	▲ 18.8	4.5	▲ 38.5	▲ 60.5	▲ 58.8
畑作	▲ 1.4	▲ 35.8	▲ 13.8	33.9	▲ 24.7	28.1	▲ 27.5	29.0	▲ 37.4	▲ 3.0	▲ 39.5
露地野菜	0.7	8.9	▲ 23.6	5.7	13.1	▲ 0.9	▲ 14.8	▲ 18.4	▲ 36.9	▲ 27.3	▲ 25.2
施設野菜	16.7	9.3	▲ 19.5	15.3	20.3	5.6	▲ 11.8	▲ 27.2	▲ 29.2	▲ 39.3	▲ 30.5
茶	▲ 11.9	▲ 43.8	▲ 59.0	▲ 52.4	8.1	25.8	▲ 16.1	▲ 54.0	▲ 76.3	▲ 5.4	▲ 35.7
果樹	14.2	0.9	▲ 20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲ 4.9	▲ 25.3	4.9	▲ 15.2
施設花き	▲ 9.7	▲ 8.5	▲ 39.2	▲ 8.1	9.1	▲ 24.6	▲ 22.0	▲ 22.3	▲ 38.2	7.3	▲ 5.9
きのこ	▲ 13.7	7.0	▲ 17.1	11.4	▲ 1.0	▲ 3.8	▲ 24.7	▲ 30.5	4.4	▲ 46.3	▲ 70.1
酪農(北海道)	▲ 3.4	▲ 10.5	▲ 12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲ 24.3	▲ 45.9	▲ 75.5
酪農(都府県)	▲ 2.6	▲ 25.4	▲ 34.3	25.4	48.4	1.7	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 14.5	▲ 45.9	▲ 83.2
肉用牛	9.9	20.2	▲ 7.6	50.8	48.6	7.0	▲ 4.1	▲ 7.3	▲ 48.4	▲ 12.3	▲ 57.6
養豚	▲ 38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲ 34.9	▲ 7.8	47.0	▲ 43.1	▲ 67.4
採卵鶏	▲ 45.6	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲ 62.8	▲ 46.0	▲ 40.6	14.7	▲ 70.1
プロイラー	1.3	▲ 22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	▲ 5.2	▲ 48.1

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比から「悪くなった」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDI (▲24.7→▲37.1)は前年実績から12.4ポイント低下した。
- ・業種別では酪農(北海道)(▲30.3→▲63.4)、酪農(都府県)(▲41.9→▲77.1)、肉用牛(▲8.4→▲50.9)、採卵鶏(15.6→▲62.5)で特に大幅に低下した。
- ・販売単価DI(▲42.6→▲28.0)は前年から14.6ポイント上昇したものの、依然としてマイナス値となっている。

3. 資金繰りDI

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年 上半期実績
農業全体	9.8	▲ 0.9	▲ 29.2	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7	0.4	▲ 16.3	▲ 24.7	▲ 37.1
稲作(北海道)	31.8	▲ 0.7	▲ 52.4	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4	7.9	▲ 1.5	▲ 40.4	▲ 44.8
稲作(都府県)	29.2	▲ 6.7	▲ 59.2	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9	4.9	▲ 22.0	▲ 41.6	▲ 37.4
畑作	2.4	▲ 17.0	▲ 10.4	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3	14.7	▲ 15.4	▲ 3.7	▲ 23.6
露地野菜	2.7	7.2	▲ 14.2	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4	▲ 13.5	▲ 27.6	▲ 21.3	▲ 23.0
施設野菜	12.7	8.1	▲ 10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲ 19.3	▲ 25.2	▲ 31.0	▲ 26.2
茶	▲ 16.4	▲ 32.5	▲ 43.7	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0	▲ 40.5	▲ 48.3	▲ 5.3	▲ 24.5
果樹	7.2	1.4	▲ 14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲ 11.8	4.2	▲ 9.9
施設花き	▲ 14.7	▲ 9.8	▲ 34.4	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 15.2	▲ 32.9	7.3	▲ 12.3
きのこ	▲ 23.5	0.0	▲ 29.3	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7	▲ 29.0	▲ 6.0	▲ 24.7	▲ 47.6
酪農(北海道)	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲ 12.0	▲ 30.3	▲ 63.4
酪農(都府県)	1.8	▲ 14.4	▲ 26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲ 6.7	▲ 41.9	▲ 77.1
肉用牛	8.1	9.7	▲ 6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲ 25.6	▲ 8.4	▲ 50.9
養豚	▲ 26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1	2.3	37.7	▲ 24.5	▲ 63.6
採卵鶏	▲ 24.4	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2	▲ 28.6	▲ 32.3	15.6	▲ 62.5
プロイラー	18.4	▲ 16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0	1.1	▲ 31.3

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比を差し引いたもの

4. 販売単価DI

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年 上半期実績
農業全体	4.5	▲ 11.1	▲ 40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9	▲ 42.2	▲ 42.6	▲ 28.0
稲作(北海道)	40.4	▲ 51.9	▲ 88.6	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4	▲ 48.3	▲ 83.5	▲ 65.6
稲作(都府県)	43.3	▲ 58.7	▲ 88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲ 64.9	▲ 83.9	▲ 59.9
畑作	▲ 29.7	▲ 36.2	▲ 30.5	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6	▲ 57.5	▲ 15.5	▲ 28.1
露地野菜	▲ 19.6	17.0	▲ 33.5	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1	▲ 42.2	▲ 29.4	▲ 11.7
施設野菜	0.9	▲ 0.4	▲ 32.8	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2	▲ 34.4	▲ 43.1	▲ 17.2
茶	▲ 27.9	▲ 62.1	▲ 64.0	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5	▲ 78.0	▲ 5.3	▲ 29.7
果樹	1.9	▲ 1.4	▲ 25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1	16.5	10.3
施設花き	▲ 27.0	▲ 21.1	▲ 47.0	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3	▲ 48.0	15.2	12.3
きのこ	▲ 42.2	1.2	▲ 22.0	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4	▲ 4.5	▲ 55.6	▲ 40.2
酪農(北海道)	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲ 37.8	▲ 53.2	▲ 61.0
酪農(都府県)	▲ 2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲ 23.7	▲ 36.5	▲ 31.7
肉用牛	▲ 4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5	▲ 62.6	▲ 4.3	▲ 48.1
養豚	▲ 71.5	70.1	84.1	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5	52.8	▲ 21.8	32.1
採卵鶏	▲ 48.8	82.3	53.6	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2	▲ 57.5	32.0	11.7
プロイラー	▲ 47.4	▲ 22.4	10.4	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3	5.1	▲ 1.0	1.9

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比から「下落した」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲68.1→▲88.0)は前年実績から19.9ポイント低下した。業種別では、全業種で▲70.0以下の大幅なマイナス値となっており、過去最低水準となっている。
- ・雇用状況DI(▲35.6→▲35.5)は前年から横ばいながら、マイナス値が続き、労働力不足の状況を示している。

5. 生産コストDI

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年 上半期実績
農業全体	▲ 50.7	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2	▲ 68.1	▲ 88.0
稲作(北海道)	▲ 49.7	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7	▲ 67.5	▲ 88.9
稲作(都府県)	▲ 38.3	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8	▲ 56.3	▲ 83.3
畑作	▲ 55.8	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5	▲ 63.2	▲ 87.5
露地野菜	▲ 46.9	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7	▲ 67.9	▲ 87.3
施設野菜	▲ 52.4	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0	▲ 78.9	▲ 88.4
茶	▲ 48.4	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4	▲ 71.7	▲ 86.3
果樹	▲ 44.8	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2	▲ 55.1	▲ 78.7
施設花き	▲ 53.3	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2	▲ 87.0	▲ 91.9
きのこ	▲ 40.6	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8	▲ 76.5	▲ 87.8
酪農(北海道)	▲ 68.8	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4	▲ 81.0	▲ 92.3
酪農(都府県)	▲ 67.5	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5	▲ 81.4	▲ 95.3
肉用牛	▲ 65.7	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9	▲ 80.8	▲ 91.6
養豚	▲ 65.9	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1	▲ 85.7	▲ 98.1
採卵鶏	▲ 61.9	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 83.4	▲ 99.2
ブロイラー	▲ 42.1	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3	▲ 63.2	▲ 88.4

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比から「上がった(コスト増)」とする構成比を差し引いたもの

6. 雇用状況DI

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年 上半期実績
農業全体	-	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0	▲ 35.6	▲ 35.5
稲作(北海道)	-	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4	▲ 36.4	▲ 36.2
稲作(都府県)	-	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4	▲ 29.7	▲ 35.4
畑作	-	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5	▲ 41.2	▲ 41.7
露地野菜	-	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2	▲ 39.0	▲ 36.9
施設野菜	-	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9	▲ 34.6	▲ 32.6
茶	-	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7	▲ 36.3	▲ 32.7
果樹	-	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6	▲ 37.4	▲ 42.1
施設花き	-	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7	▲ 41.0	▲ 37.6
きのこ	-	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9	▲ 49.4	▲ 40.2
酪農(北海道)	-	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9	▲ 42.1	▲ 43.6
酪農(都府県)	-	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5	▲ 35.9	▲ 28.6
肉用牛	-	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2	▲ 31.6	▲ 29.6
養豚	-	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3	▲ 36.0	▲ 28.6
採卵鶏	-	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 41.8	▲ 35.0
ブロイラー	-	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8	▲ 34.7	▲ 21.8

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比から「不足である」とする構成比を差し引いたもの

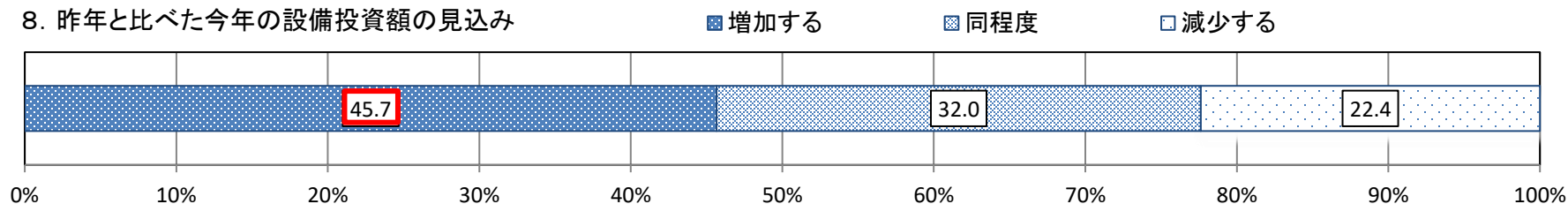
I. 農業の景況(設備投資ありの比率、設備投資額)

- ・「設備投資予定あり」の比率(58.6%→51.9%)は、前年から6.7ポイント低下するも、5割を維持している。
業種別では畑作、露地野菜、果樹、施設花きで前年並みとなる一方で、畜産業種は全業種で比率が低下しており、5割を下回った。
- ・「設備投資予定あり」と回答した先のうち、45.7%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答している。

7. 設備投資予定ありの比率

	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年
農業全体	49.8	41.2	47.6	47.5	52.9	56.1	57.1	54.9	57.3	58.6	51.9
稲作(北海道)	53.7	49.1	50.6	43.3	48.5	51.2	58.9	56.3	63.8	63.8	54.7
稲作(都府県)	60.7	50.6	52.3	46.8	53.9	58.9	62.1	59.7	62.1	61.7	56.9
畑作	49.0	39.7	46.1	49.4	58.3	60.5	59.9	60.4	67.9	60.6	60.0
露地野菜	49.6	39.3	51.7	50.0	46.1	56.7	56.5	50.7	54.0	55.4	53.5
施設野菜	52.9	42.0	43.1	51.1	51.7	52.2	50.7	44.9	51.0	51.4	45.5
茶	38.8	27.5	31.5	28.2	41.7	47.8	48.4	35.5	36.1	45.1	38.6
果樹	44.1	30.7	45.1	41.5	42.3	44.1	48.6	46.6	40.9	50.8	51.7
施設花き	38.9	30.1	46.7	39.1	37.1	48.3	39.2	38.2	50.0	55.6	54.9
きのこ	37.4	33.0	44.7	57.9	56.3	54.2	46.4	52.9	50.7	69.1	59.3
酪農(北海道)	36.0	30.9	33.2	42.2	51.9	53.1	54.5	57.0	53.0	55.0	36.9
酪農(都府県)	47.7	35.8	46.1	48.5	56.6	59.6	59.7	63.5	58.7	58.5	42.9
肉用牛	42.1	39.7	42.5	50.4	61.7	57.3	52.3	55.6	52.9	57.5	48.5
養豚	45.9	38.6	60.2	68.7	67.5	68.3	70.2	58.5	64.1	64.5	48.1
採卵鶏	44.5	38.1	51.5	47.2	64.6	66.0	59.0	48.1	59.3	63.4	46.7
ブロイラー	47.6	32.9	43.4	45.5	56.1	57.9	69.2	57.5	65.8	55.8	49.1

8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み



I. 農業の景況(天気図)

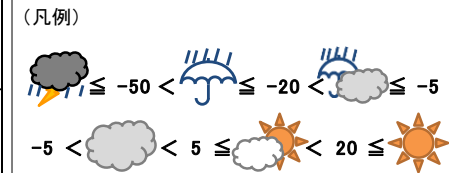
業種	令和3年 実績	令和4年 上半期実績	令和4年 通年見通し	業種	令和3年 実績	令和4年 上半期実績	令和4年 通年見通し
農業全体	29.6	42.9	55.1	施設花き	5.8	4.3	18.9
稲作(北海道)	55.2	57.3	80.1	きのこ	40.8	54.9	54.9
稲作(都府県)	55.9	47.5	59.5	酪農(北海道)	32.8	75.7	88.4
畑作	0.2	30.7	63.7	酪農(都府県)	39.5	86.2	88.0
露地野菜	21.4	20.5	35.9	肉用牛	3.1	56.2	71.3
施設野菜	32.3	24.3	24.6	養豚	36.4	76.5	79.4
茶	0.9	27.5	32.3	採卵鶏	22.6	76.7	78.3
果樹	11.9	9.4	17.0	ブロイラー	2.1	43.8	62.5

調査様式
農業経営の業況は
1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった

今年(令和4年)の経営見通しは
1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

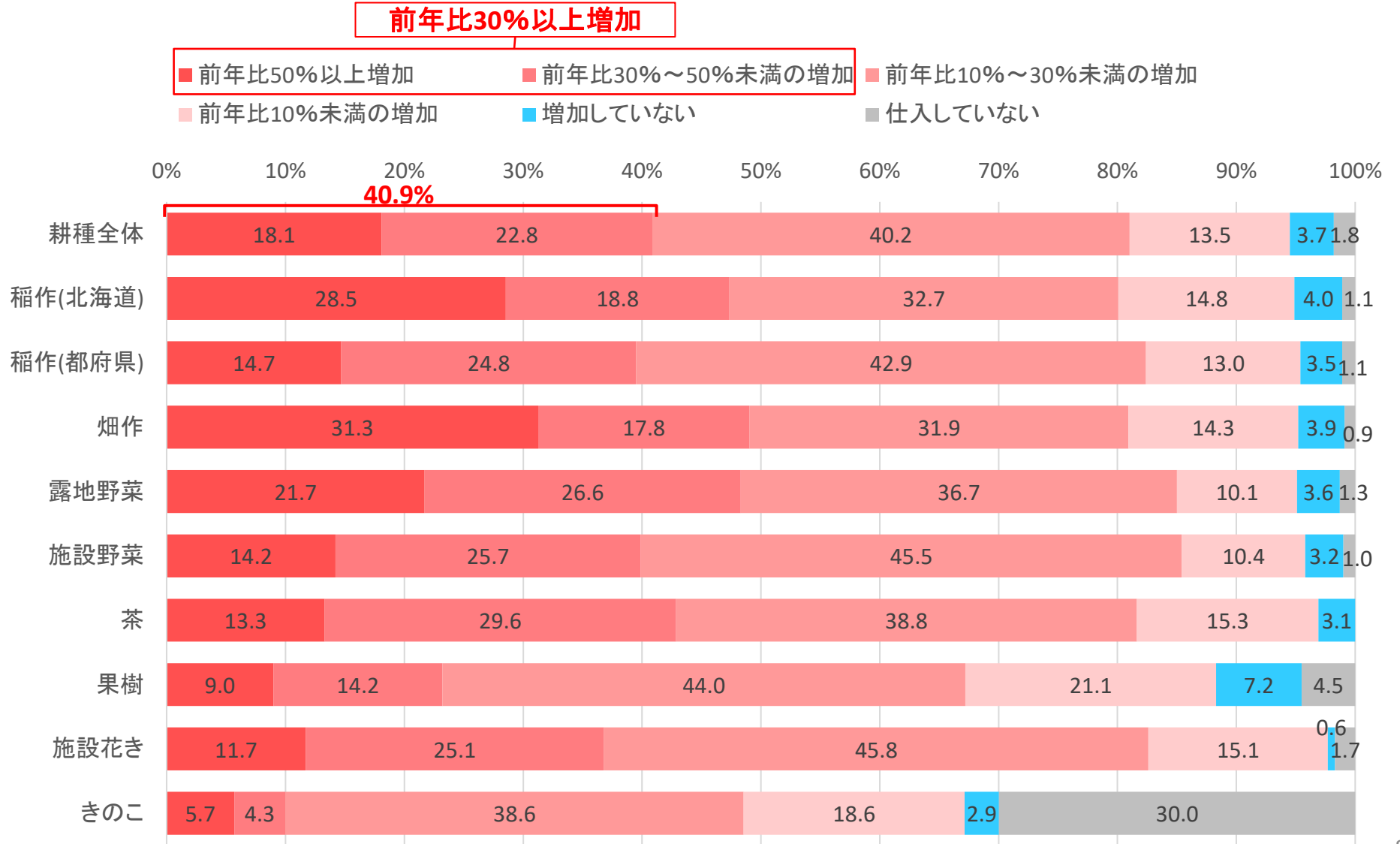
(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について
DIは、前年と比較して、「良くなった」の
構成比から「悪くなった」の構成比を
差し引いたもの。

(注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は
上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は
平行矢印。



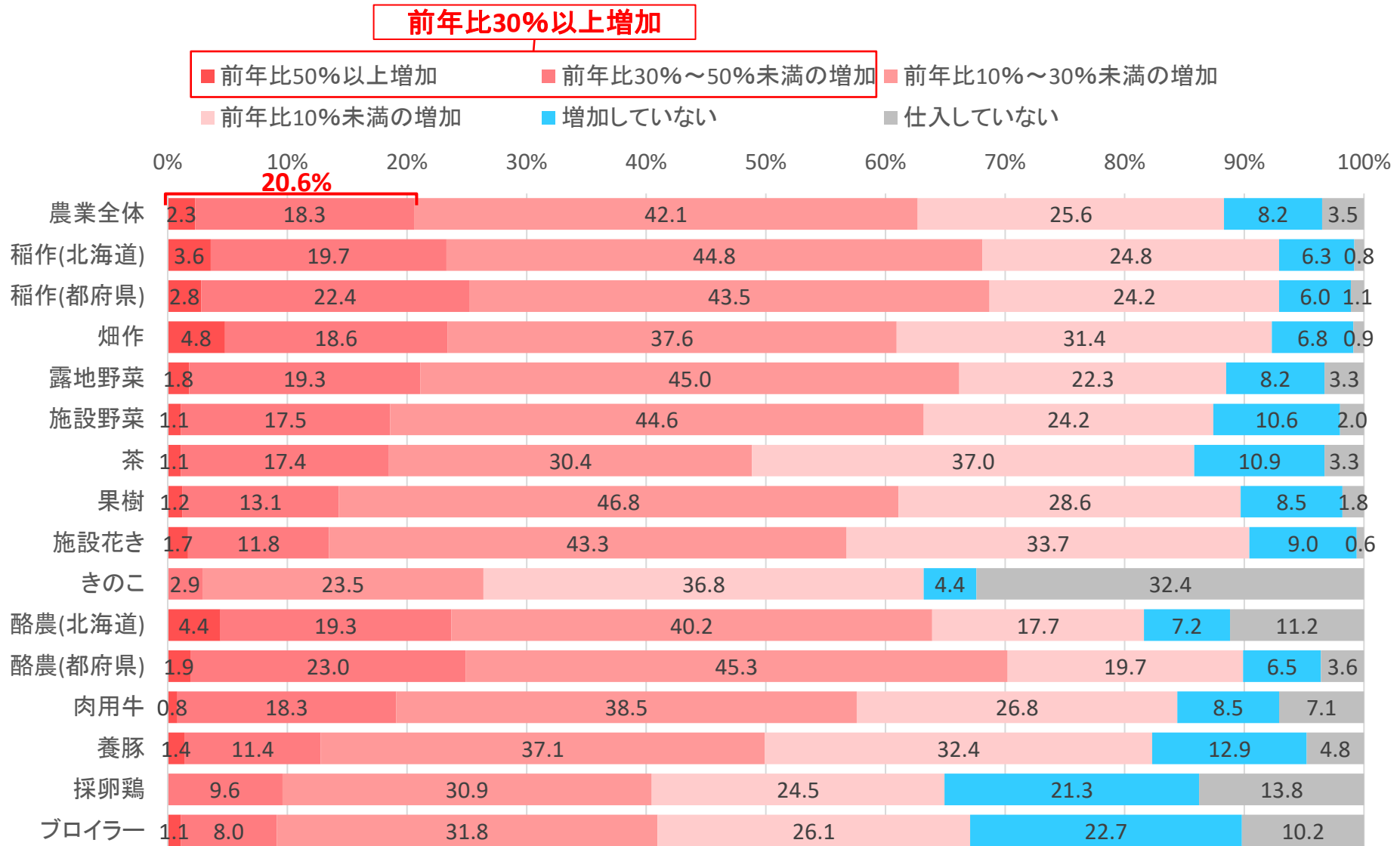
II-1. 原材料費高騰の影響について(肥料費、耕種)

・肥料費が前年比30%以上増加したとする回答は耕種全体で40.9%となった。
 ・「前年比50%以上増加」とする割合が高かったのは畑作、稲作(北海道)、露地野菜となった。



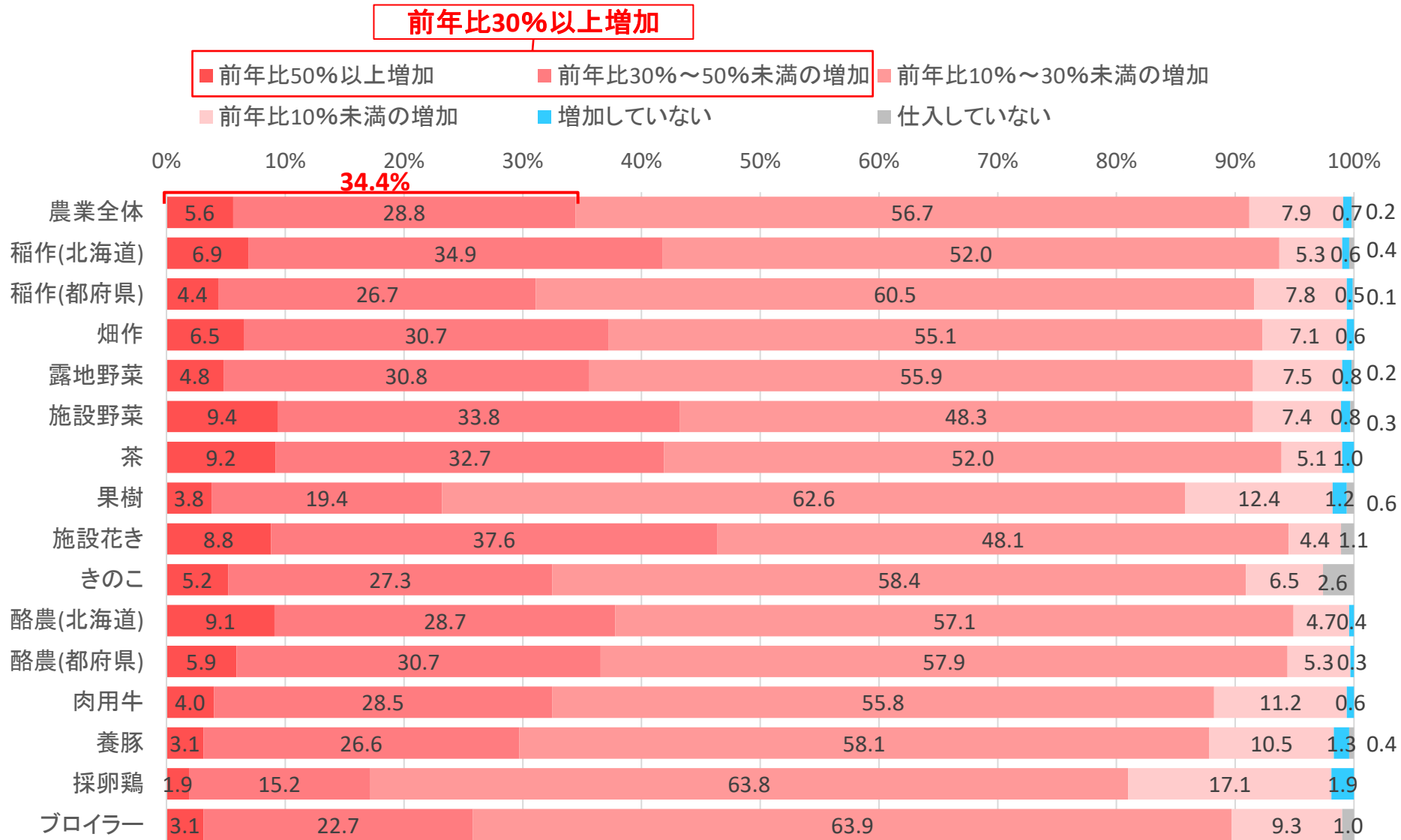
Ⅱ-1. 原材料費高騰の影響について(農薬・薬品費)

- ・農薬・薬品費が前年比30%以上増加したとする回答は農業全体で20.6%となった。
- ・「前年比50%以上増加」とする割合が高かったのは畑作、酪農(北海道)、稲作(北海道)となった。



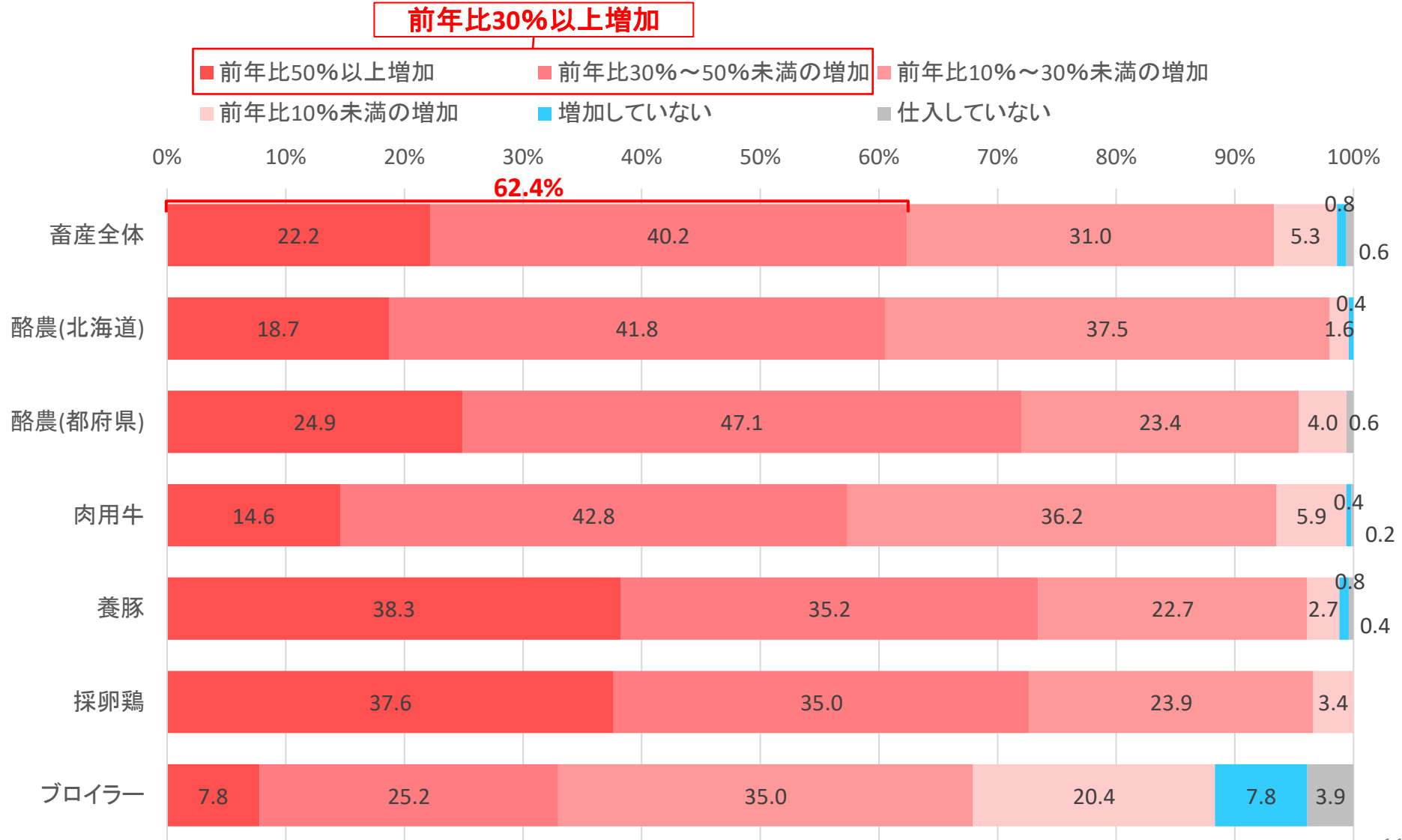
II-1. 原材料費高騰の影響について(燃料動力費)

- ・燃料動力費が前年比30%以上増加したとする回答は農業全体で34.4%となった。
- ・「前年比50%以上増加」とする割合が高かったのは施設野菜、茶、酪農(北海道)となった。



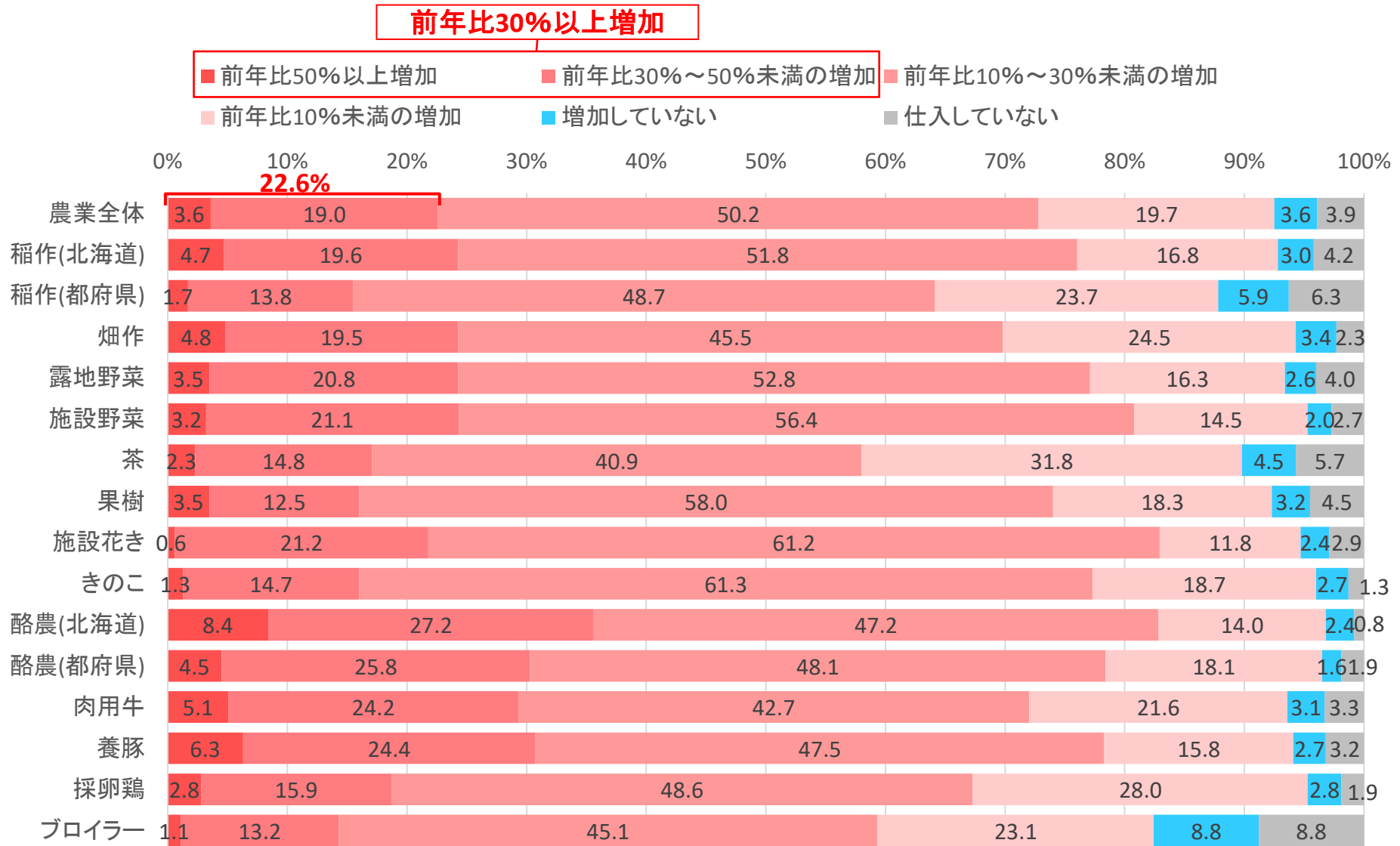
Ⅱ-1. 原材料費高騰の影響について(飼料費、畜産)

- ・飼料費が前年比30%以上増加したとする回答は畜産全体で62.4%となった。
- ・「前年比50%以上増加」とする割合が高かったのは養豚、採卵鶏、酪農(都府県)となった。



II-1. 原材料費高騰の影響について(その他資材費)

- ・その他資材費が前年比30%以上増加したとする回答は農業全体で22.6%となった。
- ・「前年比50%以上増加」とする割合が高かったのは酪農(北海道)、養豚、肉用牛となった。



II-2. 原材料費高騰に対する今後の対策について

- ・農業全体では「補助金・価格補填等の利用」、「まとめ買いなど仕入ロットの変更」、「仕入先等との価格交渉」の順で割合が高くなった。
- ・農業全体では「販売価格への転嫁」とする割合が17.7%と低いが、果樹及び施設花き、きのこ、採卵鶏では比較的高くなった。

※優先度の高いものから5つまで選択
(各業種1～3位選択肢を赤字表示)

業種	補助金・価格補填等の利用	まとめ買いなど仕入ロットの変更	仕入先等との価格交渉	原材料の使用量低減	使用原材料の変更	生産量増など収入を増やす	原材料費以外の削減	仕入先の変更	資金の借入れ	販売価格への転嫁	共済・保険への加入	事業規模の縮小	自社生産への切り替え	その他	特に対策をしていない
農業全体	40.2	37.9	35.6	34.6	31.9	27.8	23.3	21.7	17.8	17.7	11.6	8.1	6.3	6.7	5.1
稲作(北海道)	47.8	42.4	31.1	48.6	43.9	22.6	30.1	23.2	14.3	7.3	9.8	5.1	1.7	4.3	6.4
稲作(都府県)	37.5	43.5	38.7	37.4	37.5	26.2	20.3	25.8	11.8	11.3	16.8	6.5	3.1	6.4	5.8
畑作	44.0	31.9	30.9	56.2	46.6	22.8	26.0	25.7	16.0	9.6	7.7	6.4	2.1	6.4	3.4
露地野菜	37.6	44.2	33.4	40.2	32.6	32.8	23.5	21.9	10.7	21.3	10.9	11.4	3.4	6.7	4.2
施設野菜	34.2	46.1	30.9	29.5	25.9	41.5	21.6	21.9	14.0	25.2	16.7	6.6	2.4	7.4	3.5
茶	39.2	43.1	45.1	37.3	36.3	20.6	20.6	23.5	8.8	8.8	29.4	8.8	2.0	6.9	3.9
果樹	26.8	38.0	25.9	21.0	23.9	31.1	15.9	25.9	10.1	40.3	15.3	7.5	5.2	7.2	6.1
施設花き	37.0	53.3	31.5	24.5	29.9	25.0	18.5	22.3	14.1	34.8	19.0	14.1	4.9	4.9	5.4
きのこ	23.2	28.0	48.8	20.7	19.5	18.3	35.4	26.8	18.3	32.9	4.9	9.8	3.7	9.8	7.3
酪農(北海道)	40.5	31.1	34.6	53.7	30.4	25.7	28.8	17.5	29.6	5.8	1.9	10.5	10.1	6.6	4.7
酪農(都府県)	43.8	30.4	31.5	29.2	38.1	32.7	24.1	14.9	37.2	10.4	2.7	7.7	23.5	8.3	4.8
肉用牛	52.8	30.8	35.7	26.1	22.9	22.7	23.4	16.7	29.6	5.8	10.0	13.7	22.7	6.9	4.0
養豚	55.0	15.8	61.5	16.9	16.5	28.5	30.8	13.1	38.5	15.4	3.5	5.8	3.5	11.2	3.1
採卵鶏	57.1	16.0	48.7	13.4	19.3	14.3	26.9	7.6	37.8	61.3	2.5	12.6	4.2	4.2	4.2
ブロイラー	32.7	15.0	33.6	18.7	11.2	23.4	31.8	5.6	18.7	23.4	2.8	4.7	2.8	2.8	19.6